

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093300103		
法人名	医療法人 豊資会		
事業所名	グループホーム 杏		
所在地	福岡県宗像市田野1370-2 (電話) 050-3735-2144		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果確定日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

豊かな自然環境を利用し、自然にふれあいながらゆとりある生活が送れるよう取り組んでいます。
また、学習療法に取り組み、脳の活性化を図れるように努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、玄界灘に近く、周辺は自然に囲まれ、近隣にホテルや小学校がある場所に立地している。また、母体法人である病院を中心に関連した介護サービス事業所が点在し、24時間体制で診療所及び訪問看護の医療・看護の連携が図られ、利用者の安心安全をサポートしている。夏祭りや餅つき大会の開催や地域行事への参加、小学校との交流、地域住民対象に介護教室の開催等、地域との交流を積極的に行い、利用者が地域の一員として過ごせるような様々な形での支援に努めている。全職員は、利用者本人の意向や希望を尊重し、本人本位の支援とケアの質の向上に熱意を持ち、一体となって日々取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼にて理念を唱和し、その意義を理解し実践に繋がる様努めています。	地域密着型サービスについて事業目的で謳い、地域へ積極的に呼びかけ、利用者と共に地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	現在行われている地域に密着した利用者のケアの視点をふまえた事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や文化祭といった地域の行事に積極的に参加しています。 また、夏祭りといった事業所の行事にも地域に参加をお願いし、ご協力頂いています。	清掃活動や文化祭等、地域活動や行事へ参加し、小学校との交流する等、地域住民と交流を図っている。また、地域住民を対象とした介護教室の開催や事業所に足湯や地域交流スペースを設けて開放する等、地域と積極的に交流するよう工夫している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域の方々を対象に認知症についてや介護予防について等の教室を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行いグループホーム内の活動や状況を報告し、家族・地域・行政の方々との意見交換により、今後のサービス向上に活かしています。	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護と共に運営推進会議を開催し、事業所行事の報告や説明を行っている。委員の意見を検討し、外出の機会を増やすよう工夫したり、地域活動について地域の意見を求め夏祭りの運営に活かす等、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールにて担当者との情報交換を日々行っています。 また、運営推進会議や地域密着型の他事業所と連携しながら協力関係を築くよう取り組んでいます。	日頃から行政へ運営に対する報告・連絡・相談を行政窓口や電話・メールを活用して行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会・研修等を通して職員が内容を理解し身体拘束をしない様取り組んでいます。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部・外部研修を実施している。テキスト・研修記録・報告書がある。居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや声かけをしている。また、近所の人にも理解を求め、連絡をしてもらえ関係を築いている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修等を通して職員が内容を理解し虐待のない様取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・研修等を通して職員が内容を学び、利用者の権利擁護に取り組んでいます。	職員は、制度について内部・外部研修を実施している。テキスト・パンフレットがある。利用者・家族等へは、契約時に制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に直接説明し、契約締結時にも十分な時間を取り、利用者・家族より質問を受け納得して頂ける様、説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通し、利用者・家族・地域・行政の方々との意見交換により、今後のサービス向上に活かしています。	利用者、家族からの運営に関する意見は、ヒヤリハットに記録する等し、職員間で問題点を共有し、検討して運営に反映させている。出された意見については、検討していることや改善したこと等、家族へ電話や来訪時に報告をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、職員からの意見、提案を持ちかける機会を作り、反映できるよう話し合っています。また随時メール等により、意見・提案を受付けています。	管理者は、職員がいつでも意見を表出できるようパソコンを活用する等、工夫している。定期的に話し合いを行い、業務内容を見直す等、職員の気づきやアイデアを運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談により、業務目標の把握し業務に対する助言を行う事により、各自が向上心を持って働ける様努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、特に制限をせず、平等にあっています。 職員についても勤務日程等の要望を聴き、反映できる様努めています。	職員の募集・採用選考については、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。管理者は、職員の能力が発揮できる職場環境を目指し、本人の資格や能力が発揮できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会・研修等を通して全職員が人権教育・啓発活動に様取り組んでいます。	人権に関する内部・外部研修に一部職員が参加し、他の職員へ伝達している。また、職員同士で注意しながら利用者の尊厳を守り、プライバシーを損なわないケアを行っている。	研修記録を残し、資料等は職員がいつでも確認出来るよう事業所で保管してほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を紹介し受けられる様環境を整え、また定期的な会議や勉強会を通して共通した認識を持てる様、取り組んでいます。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型の他事業所との地域ネットワークを通じ情報交換や勉強会を行いサービスに活かせるよう取り組んでいます。 また、外部研修を通じ他地域の事業所との交流、情報交換を図っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接面談を行い、疑問点や要望等を聴き、それに答える事により利用者本人が安心して入居できる様、努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に直接面談を行い、疑問点や要望等を聴き、それに答える事により家族が安心できる様、努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に話を聴き、その時点での適したサービスを検討できるよう取り組んでいます。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく、共同生活の場として、共に活動できるような声掛け・雰囲気作りに努めています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事前に家族の支援が必要である事を説明し、共に支えていけるよう協力して頂いています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出できる機会を持ち、また手紙や電話等が気軽にできるよう整えています。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。地域行事へ出かけたり、家族・知人へ手紙や電話の支援をする等、利用者が人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関りあえる場所を準備し、居室に籠らない様ケアします。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族に対して相談・支援をできる体制を整えます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会議等で職員が、利用者一人一人の要望を把握し、利用者本位のケアができる様、取り組んでいます。	利用者及び家族等から聴取した思いや暮らし方等、日々のケアに活かしている。意思疎通な困難な利用者には、言動や表情から汲み取り、職員間で意見交換しながら本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会議等で職員が、利用者一人一人の生活歴を把握し、サービス提供に活かせる様取り組んでいます。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議や日々の申し送りにより、利用者の状態変化に注目し、その日のケアに役立たせています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当を中心に職員が意見を出し合い、本人や家族からも聞き取りを行い介護計画作成にあたっています。	本人・家族の意見を聴取し、職員の意見も反映した現状に即した介護計画を作成している。6ヶ月に1回または状態の変化に応じて、介護計画を見直している。介護計画作成後は家族に説明し、同意の署名や押印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録を元に会議などで職員間で話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議や申し送りなどで話し合う事により、現状に適したサービスの提供を心掛けています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる踊りや音楽の鑑賞により日々の生活に変化をつけ、また訪問理美容を利用し、好みの身だしなみを楽しめるよう取り組んでいます。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療が受けられ、異変がある時は家族に相談し、かかりつけ医との連携により要望と現状に即した医療を受けられるような体制を整えています。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医での受診を支援している、また、診療所や訪問看護との連携で24時間体制で適切な医療を受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活で気付いた事や変わった所を看護師に伝え、適切に対応できるよう取り組んでいます。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	関係医療機関と常に情報交換し、入院といった事態に対してスムーズに対応できるよう努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に、本人・家族に事業所としての方針を説明し、共に協力して支援できるよう取り組んでいます。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時また折に触れて利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、主治医で話し合い、方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修を通して、個々の対応能力の向上に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応できるよう備品を整備し、地域との協力が得られスムーズに対応できるように定期的に訓練を行っています。	マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で避難訓練を実施している。2回目を実施する際は、運営推進会議の委員の助言もあり、地域住民に参加協力を呼びかけることを検討している。	避難訓練を実施する際は、運営推進会議や自治会を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけたり、災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いてほしい。また、災害に備えて非常用の食料・飲料水・備品を準備してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、人生の先輩として常に尊敬の念を忘れず、その思いに適した言葉遣いを心掛けています。	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に配慮し、支援している。職員同士及び管理者やリーダーは、職員相互の意識向上に努めている。個人情報保護法に関するテキスト等があり、内部研修を実施している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者を観察し、言葉だけでなく表情や行動・様子により、利用者が何を望んでいるのかを汲取り実行していけるよう取り組んでいます。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活パターンを把握し、その時の気分や体調に合った活動を送れるよう支援します。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合わせた身だしなみをできる様努めます。また訪問理美容の活用により好みの髪型に整えられるよう取り組んでいます。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせて、できる範囲内の作業（盛付・食器洗い・食器拭き・片付け・掃除等）を協力して進めています。	食事は、法人内の配食サービス事業所から調理済みの食材が届き、利用者に応じた形状にして提供して作成している。献立は、管理栄養士が利用者の嗜好を考慮している。職員は利用者と一緒に準備や片付けを行い、持参した弁当を同じテーブルで食べている。おやつは、職員と利用者が共に作っている。	毎日の食でも事業所内で利用者と職員が食事の準備をし、共に副菜一品でも食事できるように環境作りを検討してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を常に記録し、個々に適した摂取ができるように支援します。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前に一人一人声掛けを行い、必要に応じて介助しています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により、個々の排泄間隔等を把握し、適した時間にトイレに誘導する等行い、排泄失敗を減らすように取り組んでいます。	排泄チェック表を作成している。職員は、定時誘導や利用者の表情や状態を観て声かけし、それとなくトイレに誘導している。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を基に、排便間隔を把握し、水分摂取や適度な運動、腹部マッサージ等便秘の予防に努めています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者からの要望を聴き、入浴方法・入浴時間を調整し必要に応じた介助を行うよう取り組んでいます。	入浴は利用者の希望に応じ、いつでも入浴できるよう支援している。入浴拒否の利用者へは、言葉かけやタイミングを計る等、工夫をして、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に合わせて、またその時の状態を読み取り必要に応じて休息・入眠できるよう支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議などで個々の服薬内容、その薬の目的・効果を職員に伝えています。また、チェック表を基に服薬確認を確実に行うように努めています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を確認し、また、本人や家族より聞き取りを行う事により、趣味・嗜好を知り、それらを活かせる支援ができるよう取り組んでいます。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節・気候に合わせて戸外レクリエーションを実施しています。また、家族の協力を得て外食・外泊等も進めています。	利用者一人ひとりの希望や体調、天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等、支援している。季節の花見等、普段は行けないような場所への外出も家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望に合わせてお金を持って頂き、職員はその管理に注意するよう努めています。また買い物等で対応できるよう取り組んでいます。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、居室に電話を設置することができる様に対応します。また要望があれば電話・手紙による連絡ができるように取り組んでいます。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるよう心がけ、また装飾や音楽により居心地のよい空間であるよう努めています。	食堂のテーブルを中心に利用者が集い、食後はそれぞれが好きな場所で過ごしている。散歩時に野の花を摘み飾る等、季節感を採り入れている。職員は共用の空間の清潔を心掛け、居心地よく過ごせるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは利用者の希望する場所に座って頂き、楽しんで過ごせるよう取り組んでいます。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との協力により、それまで自宅で使われていた物や部屋に置いてあった馴染みの物を持ち込んで頂き、それまで過ごしてきた環境にできるだけ近い雰囲気でも過ごして頂けるよう取り組んでいます。	居室には、寝具・家族写真・仏壇・筆筒や生活小物等、色々持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかり易い表示でトイレなど認識しやすいようにし、また残存機能を活かせるような支援を心がけています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない